

世界遺産 国宝 姫路城
特別公開



姫路城
世界遺産登録
30周年記念



西小天守 **初公開** 特別公開

姫路城世界遺産登録30周年を記念し、非公開エリアである西小天守を初公開します。

西小天守へ至るルートとしてイの渡櫓、東小天守(2階)、口の渡櫓、乾小天守(2階)、ハの渡櫓の5つの非公開エリアもあわせて特別公開。姫路城の連立式天守構造を体感していただけます。美しいだけではなく、防御拠点としての姫路城の姿をぜひこの機会にご覧ください。

令和6年(2024年) 2月1日(木)~29日(木)

時間 / 9:00~16:00(最終受付) 公開場所 / 姫路城天守群(国宝)

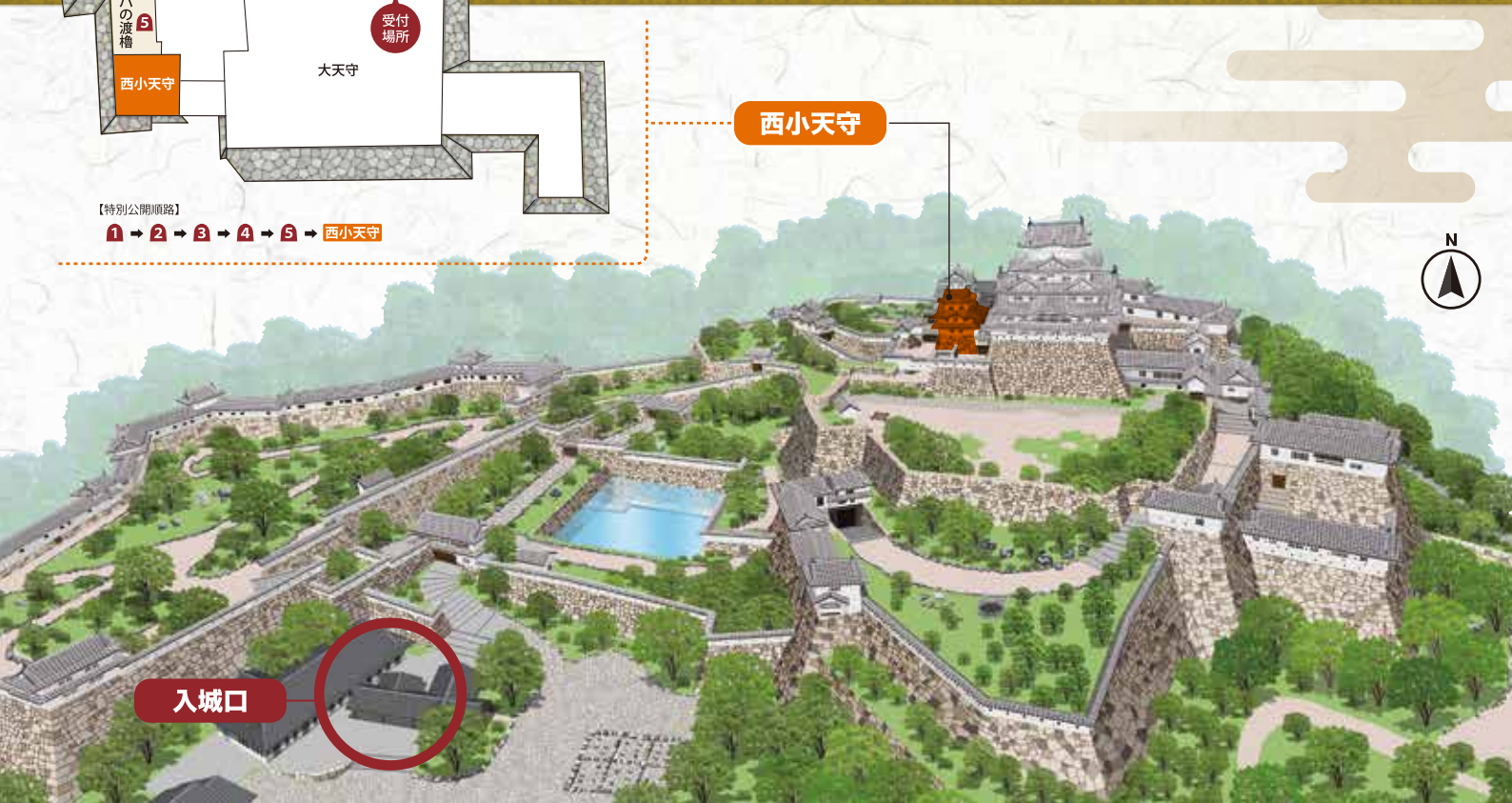
観覧料300円 ※別途姫路城の入城料が必要です



【特別公開順路】

1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 西小天守

西小天守





西小天守 **初公開** 特別公開



西小天守 外観



西小天守 内観



大天守への扉

西小天守の機能

西 小天守は大天守の西に並び建ち、連立式天守と言われる特徴的な櫓群の一角を占めている。姫路城の連立式天守の櫓群は天守曲輪を構成しており、籠城を想定したエリアとなっている。天守曲輪の内部へは、大天守の西側からアプローチするのが唯一のルートで、そのルート上には水の三門、水の四門が配置されている。西小天守はそのルートと2つの城門を見下ろすことのできる場所に建っている。



1 イの渡櫓



2 東小天守



3 口の渡櫓



4 乾小天守



5 ハの渡櫓

西小天守への扉



西小天守

西小天守の構造

西 小天守は望楼式の三重櫓で、内部は地上3階、地下2階となっている。地下2階は水の六門と大天守入口への通路となっている。その通路の頭上には地下1階が設けられている。地下1階は水の六門の上に載った櫓とみなすことができるので、地下1階は水の五門から水の六門への通路を監視することが目的で設けられたのであろう。水の五門と水の六門の2門で構成される枡形に対して至近



枡形空間

さらに、西小天守と大天守との間には水の五門を配置し、門の上にはこの渡櫓を設けて櫓門とする。水の五門から内側が天守曲輪になるので、水の五門に連続させて水の六門を西小天守地下に配置して枡形空間を設けることで、天守曲輪内部へは容易に入れないようにしている。西小天守は水の各門と連動して天守曲輪を防御するための最終防衛施設となる櫓である。

距離から狙い撃ちが可能である。西小天守の三重目には南面



1



2



3

- 1 格子窓
- 2 鉄砲狭間
- 3 石落とし



に火灯窓が付いている。乾小天守にも火灯窓が付くが、西小天守の火灯窓には縦格子が入っている。また、三重目の外壁には、瓦片が塗り込まれていた。床板と根太を切り取って、あとから階段を設置されたとみられる。築造当初は「ひつじさるやぐら」(墨書より)と呼ばれていた。

西 小天守の障子に使用している紙は、姫路市民の手ですいたものです。材料として使用した雁皮(がんび)は、市内にある書写山で採取。現代の名工・表具師梅岡一晴氏の指導の下、高校生の皆さんで張りました。見学の際は、障子にもぜひご注目ください。

姫路城便覧

姫路城の情報をリアルタイムにお届けしています。姫路城への旅行計画にどうぞご利用ください。

ホームページ

<https://www.himejicastle.jp/>



【ご利用案内】 観覧料 大人・小人 300円 ※別途下記姫路城入城料が必要です

	区分	個人料金(30人未満)	団体料金(30人以上)	備考
入城料	大人	1,000円	800円	18歳以上の方
	小人	300円	240円	小学生・中学生・高校生

開城時間 / 9:00~17:00 ※最終入城 16:00

※小学校就学前は、無料です
 ※18歳で高校生の場合は、小人料金が適用となります
 ※小学校・中学校・高校の教育旅行については、生徒15人につき引率教師1人は無料となります
 ※姫路城・好古園共通券 大人 / 1,050円 小人 / 360円